

# 貼り直しができる「遅延粘着型」屋根下葺材

## TADIS Self セルフ

“貼り直し可能な粘着層付下葺材”というユニークな視点から生まれたタディス セルフ。

貼りつけた直後なら簡単に剥がせて、再び貼り直すことができます。

貼りつけ後約2時間、強固な粘着力と防水効果が発揮されます。

これが遅延粘着型ルーフィングの時間差効果。

粘着系下葺材の新しいスタイルです。



16×1m / 17kg / 厚さ1.0mm  
20kg / 厚さ1.2mm

ひとつ上の下葺材

田島高付加価値商品群  
タディスシリーズ

田島ルーフィング株式会社

東京 東京都千代田区外神田4-14-1 秋葉原UDX21階  
大阪 大阪府大阪市西区京町堀1-10-5

TEL: 03 (6837) 8900  
TEL: 06 (6443) 7450

# 粘着系下葺材の新しいスタイル。 タディス セルフ

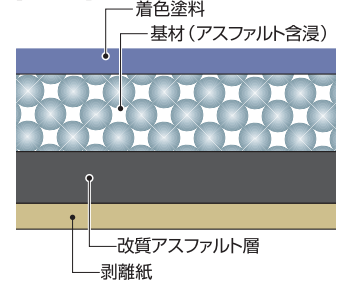
## 製品構成

長さ	16m	
幅	1m	
重量（剥離紙含む）	17kg	20kg
厚さ（剥離紙除く）	1,0mm	1,2mm

※数値は代表値であり、実際の製品寸法と異なる場合があります。

タディスセルフは、当社独自の製法によってつくられた基材（フェルト）の下面に、改質アスファルト層を塗布した構成になっています。基材は原紙に有機合成繊維を混入することにより、引裂強度と寸法安定性の向上を図っています。

【構成図】



## 施工性

タディスセルフは、下地や隣り合わせのルーフィングに貼りつけるとき、貼りつけ直後にはさほど強く粘着しないようにつくられています。そのため貼り違えたときなど、簡単に修正できます（一人施工が可能）。しかし数時間後には、対象下地によくなじんで強固に粘着し、防水効果を発揮します。

※温度環境や下地の種類によっては、施工時にタッカーによる仮留めが必要になる場合があります。



貼りつけ直後



2時間後

— 下地合板に対する粘着性の比較 —



貼りつけ直後



2時間後

— ルーフィングどうしの粘着性の比較 —

施工時表面温度23℃、屋外放置2時間（表面温度38℃）

## 釘穴シーリング性

### 試験方法

**初期値**：断熱材を下地として、試験体にスレート釘を打ち、その周囲に塩ビパイプを立てシールする（静水圧法）。初期水位を50mmとして24時間後の水位の高さを調べ漏水の有無を確認する。

**耐久性**：耐水合板を下地として、試験体に300mm間隔で釘を2点打ち、加熱処理後にWet・Dryを交互に7回繰り返す。その後静水圧法により漏水の有無を確認する。

加熱処理…60℃恒温槽に試験体を168時間静置する  
Dry……60℃恒温槽に試験体を24時間静置する  
Wet……常温水道水中に試験体を24時間静置する

### 試験結果

漏水頻度＝漏水個数／試験水頭（n＝10）

	タディスセルフ	アスファルトルーフィング940
初期値	0／10	2／10
耐久性	0／10	2／10

※試験値は代表値であり、保証値ではありません。

屋根下葺材において重要とされる釘穴シーリング性においても、優れた性能を有しています。

